



すぐはじめよう！ 基本がわかるSDGsセミナー



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT **GOALS**



JPコーチ&コンサルティング株式会社



TOKI MARINE
NICHIDO

東京海上日動火災保険株式会社

1. SDGsの概要

Sustainable Development Goals

(サステナブル：持続可能)
(ディベロップメント：開発)
(ゴール：目標、到達点)



SDGsとは？
＝持続可能な開発目標

人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までの達成すべき目標

2. SDGsが登場した背景

(1) MDGsからSDGsへ

● MDGsとSDGsの比較

MDGs

ミレニアム開発目標

Millennium Development Goals
2001~2015年

8ゴール・21ターゲット
(シンプルで明快)

途上国の目標

国連の専門家主導で策定

SDGs

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals
2015~2030年

17ゴール・169ターゲット
(包括的で、互いに関連)

全ての国の目標
(ユニバーサリティ)

国連全加盟国で交渉

実施手段も重視
(資金・技術等)

出展：外務省国際協力局「持続可能な開発のための2030アジェンダと日本の取組」

2. SDGsが登場した背景

(2) 地球環境、経済格差、人口増・・・未来への課題が山積みとなっている現実



2. SDGsが登場した背景

(3) VUCA（ブーカ）の時代

VUCAとは「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味します。
元々は1990年代後半に軍事用語として発生した言葉ですが、2010年代に入ると、昨今の変化が激しく先行き不透明な社会情勢を指して、ビジネス界においても急速に使われるようになりました。

VUCAとは？

Volatility：変動性

「これからどのような変化が起こっていくのか」が予測不可能な、変動が激しい状態

Uncertainty：不確実性

不確実な事柄が多く、「この先、私たちを取り巻く環境がどう変化していくのか」がわからない状態

Complexity：複雑性

さまざまな要素・要因が複雑に絡み合っていて、単純な解決策を導き出すのが難しい状態

Ambiguity：曖昧性

「どうしたら、問題を解決できるのか」「本当にこの方法で解決できるのか」、絶対的な解決方法が見つからない曖昧な状態

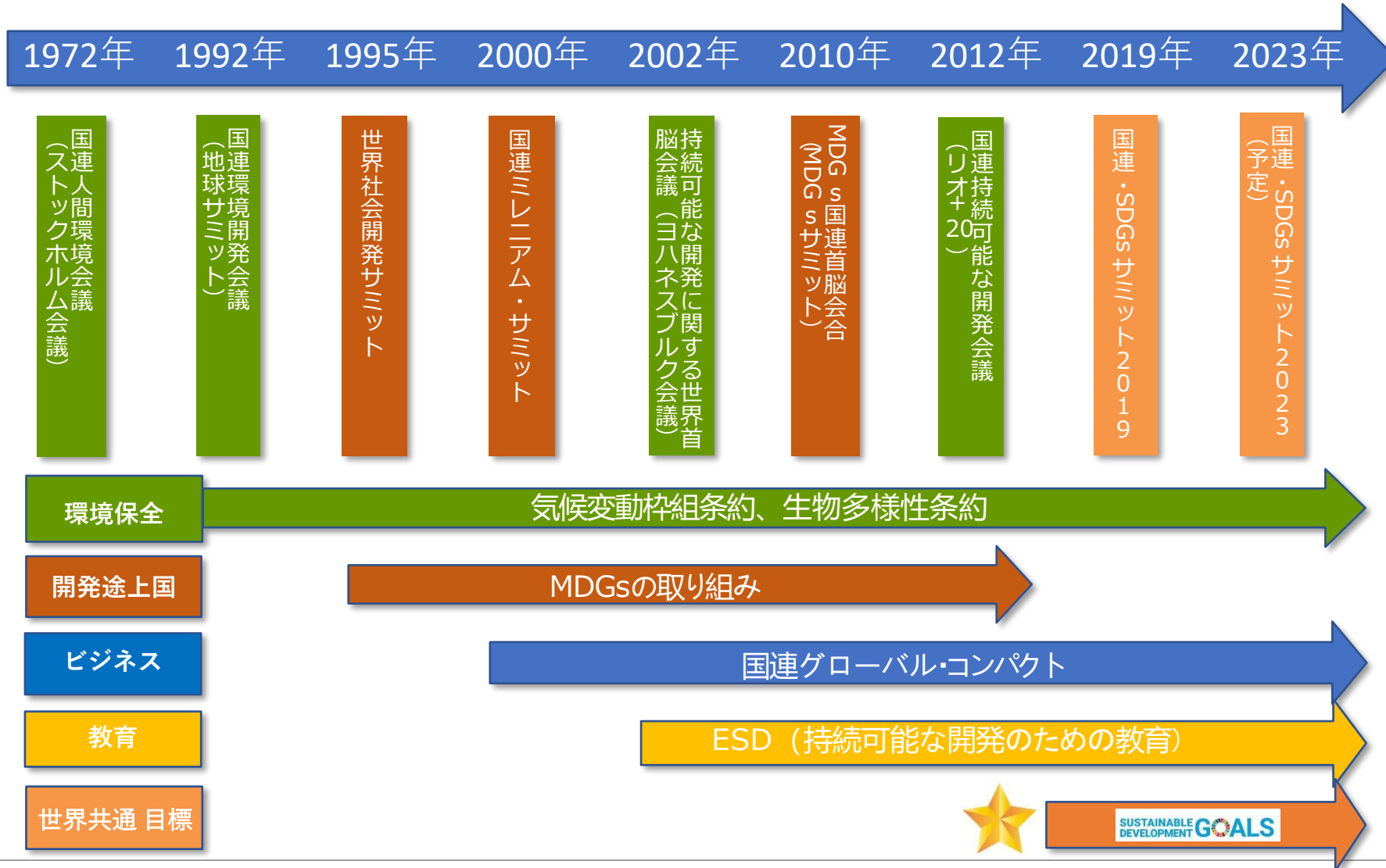


混沌混乱の世界となり、地球の限界が見えてきた・・・



2. SDGsが登場した背景

(4) SDGs登場までの流れ



(いつ・どこで)

- 2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」で

(誰が)

- 国連加盟国193ヶ国が全会一致で

(何を・どうした)

- 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択
- 17のゴール、169のターゲットで構成

(何のために)

- 経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の目標（達成期限は2030年）

3. SDGsの内容、構成

(1) SDGsの内容



貧困をなくそう

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する



すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



質の高い教育をみんなに

すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



安全な水とトイレを世界中に

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



人や国の不平等をなくそう

各国内及び各国間の不平等を是正する

3. SDGsの内容、構成

(1) SDGsの内容



住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



つくる責任つかう責任

持続可能な生産消費形態を確保する



海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



気候変動に具体的な対策を

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



陸の豊かさも守ろう

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



平和と公正をすべての人に

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシ

3. SDGsの内容、構成

✧具体例：ゴール5（ジェンダー平等を実現しよう）

5 ジェンダー平等を
実現しよう



どんな目標？

- 社会的・文化的な役割における男女の平等を図る
- すべての女性や女の子の差別撤廃や地位向上を図る

考えるためのキーワード

- ジェンダー・ギャップ指数 ●育児休業



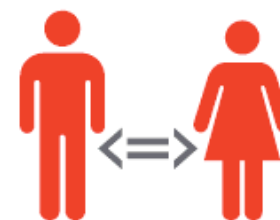
ジェンダー・ギャップ指数

Q：日本はジェンダー平等が遅れている国なの？

A：「ジェンダー」とは、社会的、文化的に役割が与えられた性別のことです。男女格差を示す「ジェンダー・ギャップ指数」の順位では、日本は153か国中121位と大変遅れています。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」や「子どもができたなら仕事を辞める方が良い」など、社会の価値観を変えていくことが求められています。

Q：わたしたちにはどう関係しているの？

A：少子高齢化の進行とそれに伴う生産人口の減少、グローバル化の進展など、社会情勢が大きく変化しています。そうした変化に対応していくためには、すべての人が、お互いに人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、個性と能力を発揮することにより、多様性に富んだ活力ある男女共同参画社会を実現していくことが大切です。



ジェンダー・
ギャップ指数
世界**121**位

出典：愛知県「愛知県SDGsガイドブック」

3. SDGsの内容、構成

✧具体例：ゴール12（つくる責任 つかう責任）

12 つくる責任
つかう責任



どんな目標？

●生産者の側も、消費者の側も、
お互い責任を持つ

考えるためのキーワード

●食品ロス ●エシカル消費
●フェアトレード



食品ロス

Q: 日本はまだ食べられる食品を大量に捨てているって本当なの？

A: 売れ残りや食べ残しなどの理由で本来食べることができるのに捨てられる食品、いわゆる「食品ロス」は、日本国内で年間643万トンに上ります。1人あたりでは、お茶碗1杯分のごはんを毎日捨てていることになります。食料自給率が低く、たくさん食料を輸入しているにもかかわらず、多くの食べられる食品を捨てています。さらに、水分を含んだごみは焼却の際に燃料を必要とする場合があります、地球温暖化を進めることにもつながります。

Q: わたしたちにはどう関係しているの？

A: 食品ロスを減らすためには、つくる側とつかう側の両方の取組が必要です。例えば、つくる側の取組としては、ケーキや恵方巻きなどの季節商品を予約制にして必要以上につくらないなどがあります。また、つかう側の取組として、買い物では食べる分だけ購入する、料理では食材を有効に使う、食べ残しをしないなどがあります。県民一人ひとりが毎日の生活において意識して食品ロスの削減に取り組むことが重要です。

食品ロス

年間 **643** 万トン



1人あたり
ごはん **1** 杯分

出典：愛知県「愛知県SDGsガイドブック」

3. SDGsの内容、構成

❖具体例：ゴール13（気候変動に具体的な対策を）

13 気候変動に
具体的な対策を

どんな目標？

●気候変動やその影響を減らすために、
いますぐ行動する

考えるためのキーワード

●気候変動 ●異常気象
●平均海面水位の上昇

異常気象

Q: 最近の異常気象は、地球温暖化と関係があるの？

A: 地球温暖化を主な原因とする気候変動の影響により、世界各地で異常気象が発生しています。熱波や寒波、大雨、日照不足、冷夏など地域によっては、人の命にかかわるような激しい気象変化を伴います。こうした気象の変化は、地球温暖化の進行とともに、さらに大きくなると予想されており、CO₂の排出を止めるとともに、農林水産業などの生産活動や都市の防災などをどのように適応させていくかが課題です。

Q: わたしたちにはどう関係しているの？

A: 日本でも平均気温は長期的に上昇傾向（100年あたり1.24℃）にあり、猛暑日や1時間に50mmを超えるような局所的な降雨の回数も増えています。また、日本近海の海水温の上昇により、勢力の強い大型台風が日本列島を直撃するようになり、大きな被害が発生しています。各地の異常気象による被害をなくすためには、ライフスタイルの変革も含めた脱炭素社会をいかに実現するかにかかっています。

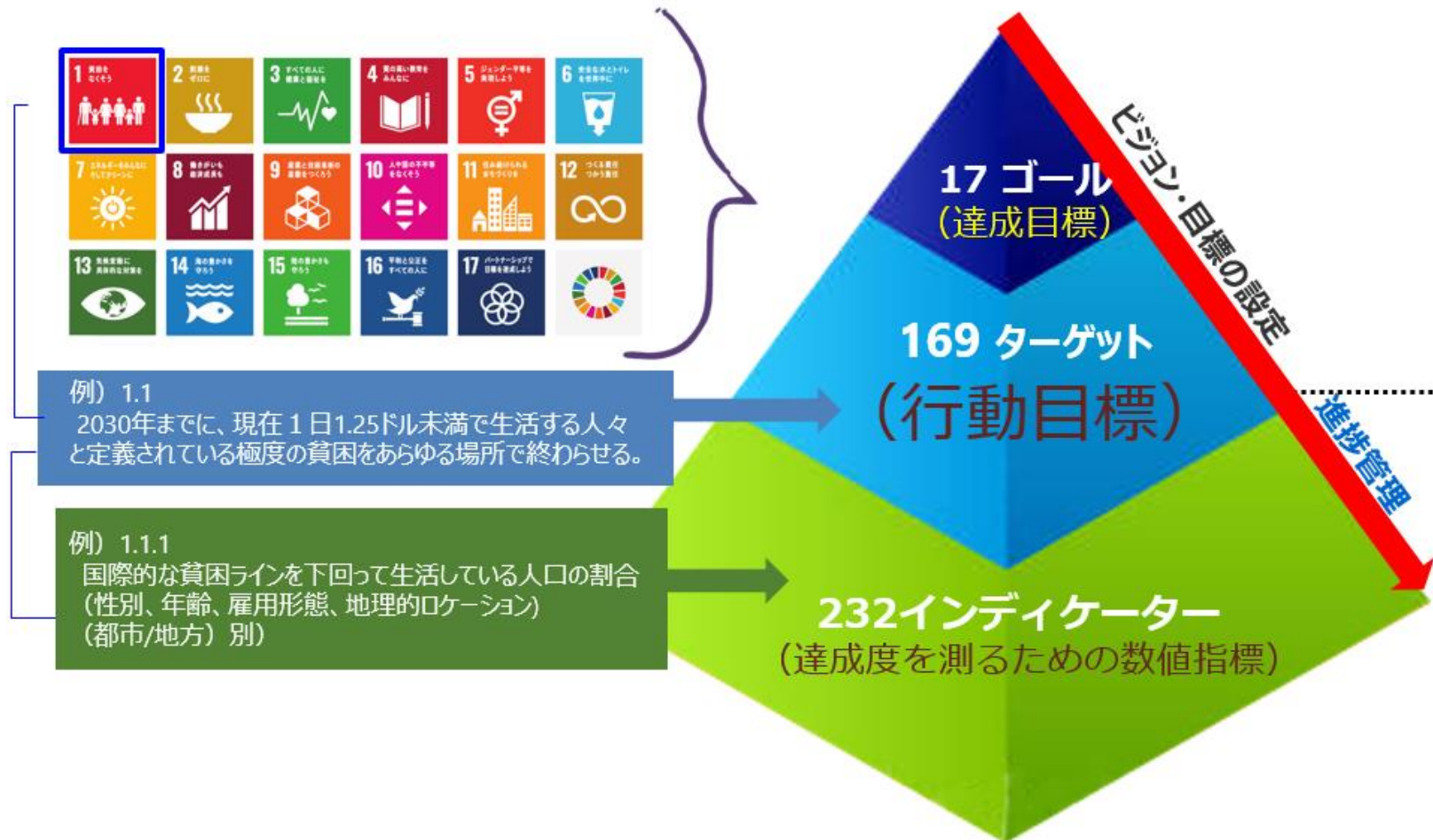
気候変動による 経済損失額



出典：愛知県「愛知県SDGsガイドブック」

3. SDGsの内容、構成

(2) SDGsの構成



出典：首相官邸、自治体SDGs推進評価・調査検討会「地方創生SDGsローカル指標リスト 2019年4月版（暫定版）」

4. SDGsを読み解く

(1) SDGsの目標設置の基準（5つの特徴）

SDGs 目標設定の基準



普遍性

一部ではなく、
すべての国
が行動・実施



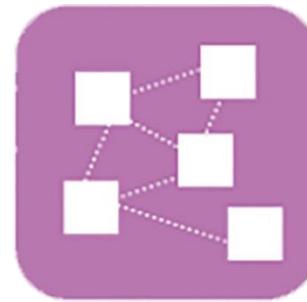
包摂制

地球上の
誰一人取り残さない
(Leave no one behind)



参画型

関連する全ての人
がSDGs達成における
役割を持つ



総合性

問題に対して
バラバラではなく
統合的に取り組む



透明性

定期的に
フォローアップする

出展：ウェブサイト「スタスタ」（一部加筆）

4. SDGsを読み解く

(2) SDGsの捉え方ー 5つのP

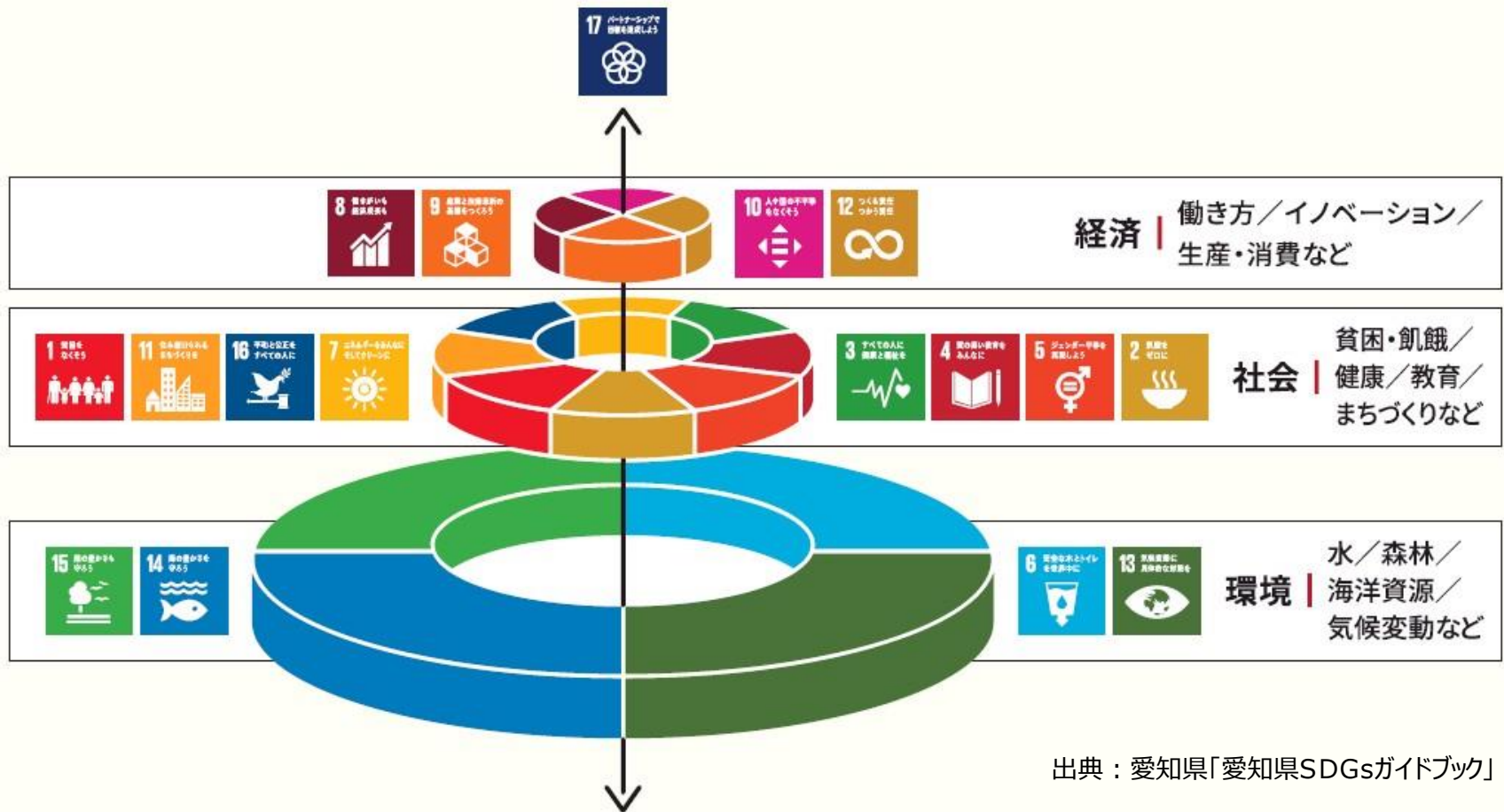
人間 (People)	貧しさを解決し、健康に 
繁栄 (Prosperity)	経済的に豊かで、安心して暮らせる世界に 
地球 (Planet)	自然と共存して、地球の環境を守る 
平和 (Peace)	争いのない平和を知ることから実現 
連携 (Partnership)	みんなが協力し合う 



出典：外務省・SDGs概要説明資料

4. SDGsを読み解く

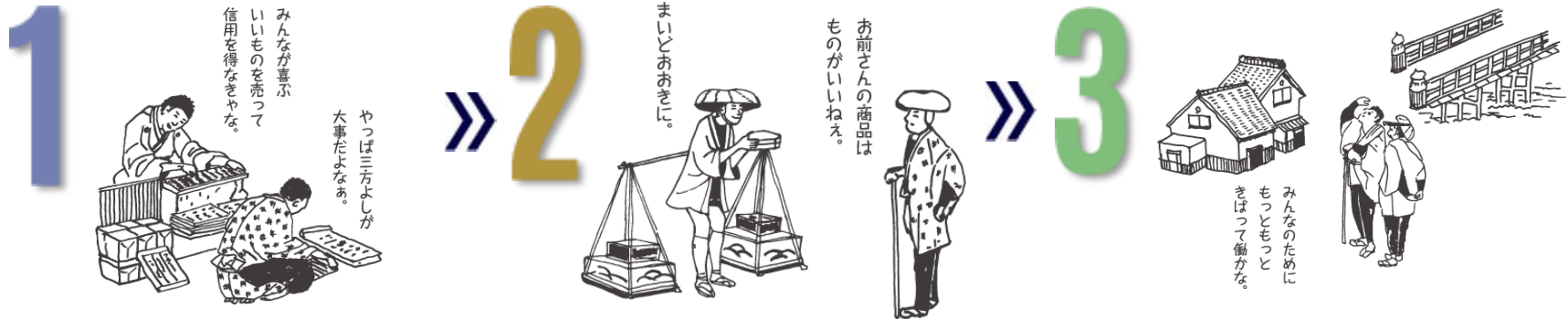
(3) SDGsの捉え方ー互いに関連するゴール (ウェディングケーキモデル)



「経済」は「社会」に、「社会」は「環境」に支えられて成り立つ

4. SDGsを読み解く

(4) 近江商人の三方よしの考え方 (底流)



近江(現在の滋賀県)に本店を置き江戸から明治にかけて日本各地で活躍した近江商人。彼らが信用を得るために大切にしていたのが、「**買い手よし 売り手よし 世間よし**」という「三方よし」の精神でした。

近江商人は「三方よし」をモットーに、自らの利益のみを求めることなく、多くの人に喜ばれる商品を提供し続けました。

そうして少しずつ信用を獲得していったのです。

さらに彼らは利益が貯まると無償で橋や学校を建てたりと、世間の為にも大いに貢献しました。つまり三方よしとは「**商いは自らの利益のみならず、買い手である顧客はもちろん、世の中にとっても良いものであるべきだ**」という現代の経営哲学にも通じる考え方なのです。

近江商人の三方よしの考え方 + 未来よ = SDGs

4. SDGsを読み解く

(5) 「連鎖」と「全部を同時に」を意識する

* SDGsを理解する上で重要なポイントとして、以下のふたつの桶で表されます。

1 • SDGsは「自分の行動が、思わぬ行動につながっている」と言われています。

* 「風が吹けば桶屋が儲かる」の落語

風→砂埃→失明→三味線→猫→ネズミ→桶→桶屋

ひとつめの桶：連鎖

EX. 砂漠化→ 人が住めない→産業衰退 →若者流失 →都市スラム化→テロ組織の温床

2 • SDGsは「17のゴール、169のターゲットは、相互に繋がりがあい、すべてが実現できるか/すべてが実現できないかのどちらか」と言われています。

* ドベネックの「桶」

たとえ一枚の板のみがどれだけ長くとも、一番短い部分から水は溢れ出し、結局水高は一番短い板の高さまでとなる。

ふたつめの桶：全部を同時に

EX. 先進国だけ、途上国だけ、ということではなくすべての国が同時にやる。

出典：株式会社プロジェクトデザイン・SDGs de 地方創生カードゲーム・資料



4. SDGsを読み解く

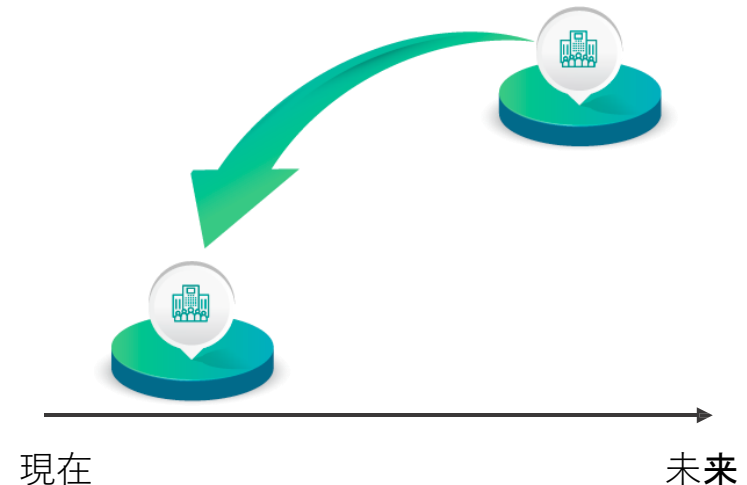
(6) バックキャスティング（本来あるべき姿）で考える

フォアキャスティング（fore casting）
（現状分析・改善）



現状から何するか

バックキャスティング（back casting）
（本来あるべき姿）

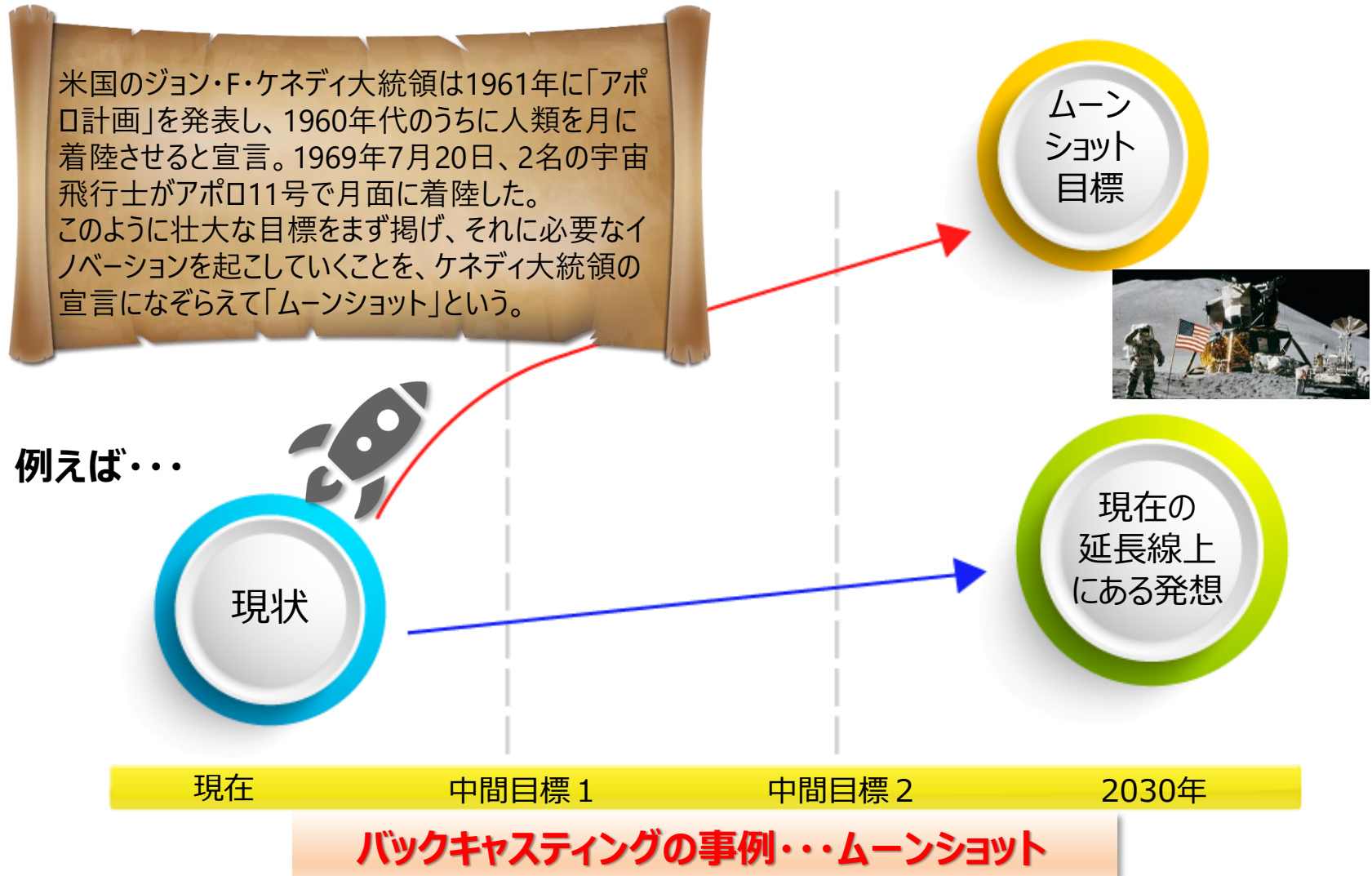


到達点から逆算して何をするか

出典：「SDGsが問いかける経営の未来」（モニター・デロイト）

4. SDGsを読み解く

(6) バックカスティング（本来あるべき姿）で考える



5. 企業での取り組み事例

(1) 株式会社日本フードエコロジーセンター（神奈川県）



＜取組概要＞

- ・「**食品ロスに新たな価値を**」という企業理念の下、食品廃棄物を有効活用するリキッド発酵飼料（リキッド・エコフィード）を産学官連携で開発し、**廃棄物処理業と飼料製造業の2つの側面を持つ新たなビジネスモデルを実現**。
- ・国内で生じる食品残さから良質な飼料を製造し、輸入飼料の代替とすることで、飼料自給率の向上と共に、**穀物相場に影響を受けにくい畜産経営を支援し、食料安全保障に貢献**。
- ・**同社の飼料を一定割合以上用いて飼養された豚肉をブランド化**し、養豚事業者や製造業、小売り、消費者を巻き込んだ**継続性のある「リサイクルループ」（循環型社会）」を構築**。



SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）	
普遍性	食品廃棄物を有効活用するリキッド飼料化事業は国内外における食品ロス対策のロールモデルとなり得る。
包摂性	社内において障がい者、高齢者人材雇用等幅広い人材の参画に努めている。
参画型	多くのステークホルダーと協働して継続性のある「リサイクルループ」を構築している。
統合性	廃棄物処理業と飼料製造業の両面をもつことから、小売や外食といった他業種をはじめ多様なステークホルダーの結節点となっている。
透明性と説明責任	行政や排出事業者の視察に積極的に応じるほか、飼料の品質は定期的に第三者機関で検査を行い、開示している。

出展：外務省・JAPAN SDGs Action Platform 第2回ジャパンSDGsアワード ホームページより抜粋

5. 企業での取り組み事例

(2) SUNSHOW GROUP (三承工業株式会社他) (岐阜県)



貢献する目標



＜取組概要＞

- **SDGs発信基地を地元岐阜市にオープンし、地方中小企業がSDGs達成に向けて積極的に取り組み、企業成長につながる先進的な事例を示している**ほか、同社自らがモデルとなり、全国にそのノウハウ提供と推進を図っている。
- 低所得者や外国人などマイホーム取得が困難な世帯のマイホーム建設を実現し、**貧困からの脱却や地域コミュニティの関係強化を支援**。
- 持続可能な企業成長を可能にするため、ステークホルダーの家族を含む**ダイバーシティ推進グループ**を組織し、**子連れ出勤やキッズスペースの設置、風土改革や休み方改善、社員の表彰制度の整備などを実施**した。

SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）

普遍性	SDGsの取組と企業成長が結びつく先進的な事例として、国内外の企業のロールモデルとなり得る。
包摂性	低所得者や外国人支援，女性活躍推進，働き方改革を従業員や家族、関係協力業者も含めて包摂的に取り組んでいる。
参画型	地域の発信拠点において地域住民を対象にワークショップを開催するなど教育機会の創出を図っている。
統合性	事業それぞれの取組が有機的に連動し、地域社会を巻き込みながら、SDGs達成に向けた取組を進めている。
透明性と説明責任	自社HPにSDGs特集ページを開設し、情報発信。

出展：外務省・JAPAN SDGs Action Platform 第2回ジャパンSDGsアワード ホームページより抜粋

5. 企業での取り組み事例

(3) 日本リユースシステム株式会社（東京都）



＜取組概要＞

- 様々な理由で不要となりながらも手放せなかった**古着を回収し、開発途上国にて安価でリユース**。さらに、専用回収キット1つ購入するごとに、購入代金から**5人分のポリオワクチンが寄付**される取組。
- 古着を専用回収キットに詰めて集荷に来てもらうだけで、片づけと**社会貢献ができる取り組みやすさ**で、次に誰かが着てくれるため、ただ捨ててしまうことに罪悪感のある**ユーザーの意識変容を促進**。
- 集まった衣類は開発途上国に送られ、現地で安価で販売されるため、**現地にビジネスと雇用を創出**。
- 専用回収キットの封入・発送作業を福祉作業所に依頼することで、**障がい者の活躍の場を創出**。

SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）

普遍性	古着を捨てるのではなく役立つように手放す仕組みであり、環境にも優しく、衣類の活用方法のロールモデルとなる。
包摂性	福祉作業所で専用回収キットの封入・発送作業を行うとともに、再販売される国で選別・販売にあたる現地雇用を創出。
参画型	家庭でも企業でも簡単にできる仕組みで、古着の処分を通じて意識変容を促し、気軽に社会貢献ができる。
統合性	寄付ではなく、企業がビジネスとして回収、再販売を実施することで、持続的にサービスを提供、継続的な支援に繋がる。
透明性と説明責任	毎月の寄付人数と衣類の着数を報告。寄付されたワクチン活用の様子を現地で確認し、ユーザーに発信。

貢献する目標



出展：外務省・JAPAN SDGs Action Platform 第3回ジャパンSDGsアワード ホームページより抜粋

5. 企業での取り組み事例

(4) 阪急阪神ホールディングス株式会社（大阪府）



＜取組概要＞

- 社会貢献活動「阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクト」の取組の一環として、阪急電鉄と阪神電気鉄道で、2019年5月から、**日本で初めてSDGsをテーマとする列車「SDGsトレイン」を運行**。
- **国・自治体・市民団体・企業等50を超える団体と協働**し、車両の外観のラッピングに加え、SDGsの解説や各主体の取組を紹介する約165種の車内ポスター等を通じて、**列車全体でSDGsの認知度向上と具体的なアクションを喚起**。
- 同列車は、**最新の省エネ車両を使用**するとともに、**実質100%再生エネルギーで運行**している。
- 東急グループなど他の大手鉄道会社にも**SDGsトレインの運行を呼びかけ、同様の取組が拡大**。

SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）

普遍性	外観に加え、列車内でも多様なメッセージを発信するスキームは国内外での展開が可能であり、既に他社との連携も実現している。
包摂性	多様な社会課題に取り組む市民団体との協働や、社会課題に関するポスター掲示等により、多様な視点を提供。
参画型	約50の参画主体との協働や約165種のポスター紹介を通じ、幅広い関係者を巻き込んでいる。全てのコンテンツはWEBで閲覧可能。
統合性	100%再エネ運行により環境面へ配慮すると共に、多様な社会的メッセージを発信することで、環境・社会・経済の統合を目指す。
透明性と説明責任	定期的なWEB調査によりSDGsトレインの効果を検証し、関係者へ報告。市民団体との対話やWEB等での取組公開を実施している。

貢献する目標



出展：外務省・JAPAN SDGs Action Platform 第4回ジャパンSDGsアワード ホームページより抜粋

5. 企業での取り組み事例

(5) 株式会社エムアールサポート（京都府）



＜取組概要＞

- ・ 従来危険な道路上で行っていた舗装修繕工事に係る業務を、**ICTを用いることで、室内のパソコンで行える**ようにし、安全性や働きやすさの向上に貢献。その結果、重大事故のリスクを軽減や、今まで工事に携わる事が難しかった**未経験者、身体障がい者、女性等も就労できる環境を創出し、また就労した人の技能向上の効果**も確認。
- ・ 「誰もが公共工事に携われる環境を作る」アプローチにより、**性別や年齢、体力や障がいの有無に左右されない雇用を創出し、人手不足や貧困問題の解消等**を通してSDGs達成に貢献。
- ・ 仕事を通して、パソコンの操作方法習得を含む**労働者のICT教育**にも繋がっている。

SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）

普遍性	道路という世界共通のインフラを対象とした技術革新であり、その技術と実施形態の先進性は国際社会でロールモデルとなり得る。
包摂性	年齢、ジェンダー、障がいの有無、国籍や宗教等を問わない就労を可能とすることは、「誰一人取り残さない」の理念に合致。
参画型	自社開発ソフトの無料貸し出し等により、労働者の初期投資負担を軽減。行政や舗装業各社及び関連企業を巻き込んでいる。
統合性	リサイクル資材を用いた舗装修繕産業において多様な人が平等に就労することで、経済・社会・環境の3分野の相互関係性を強める
透明性と説明責任	省庁や財団の実施するアワードで取組を公表し評価を受けており、発表の際には自身の活動に目を向けて修正や自己評価を実施。

貢献する目標



出展：外務省・JAPAN SDGs Action Platform 第4回ジャパンSDGsアワード ホームページより抜粋

5. 企業での取り組み事例

(6) 株式会社キミカ（東京都）



＜取組概要＞

- **生きた海藻は刈り取らず浜辺に打ち上げられた漂着海藻を原料**にして、食品加工、医療、繊維加工、飼料・肥料等に不可欠な素材「アルギン酸」を抽出。アタカマ砂漠北部の乾燥帯を利用して、**電力も熱源も消費することなく海藻を乾燥・保管することで環境に優しいビジネスモデル**を確立。
- 30年以上にわたり継続的かつ安定的にチリの漁民から海藻を買い取り、**投機的な海藻乱獲を抑制し、チリ漁民の収入安定化にも寄与**。アルギン酸を抽出したあとの**海藻残渣は、良質な土壌改良材として近隣の農家に無償で提供**することで地域貢献。
- **本業の事業活動を通じた社会課題解決を実践**すると同時に、業界における世界トップメーカーに成長し、**環境・社会・経済価値の両立**を実践。

SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）

普遍性	本業の事業活動を通じてSDGs達成に貢献する傍ら民間企業として競争力を維持している実績は、国際的なロールモデルと言える。
包摂性	30年間継続的かつ安定的に漁民から海藻を買い取る姿勢を貫き、不安定な生活を余儀なくされてきたチリ漁民の収入安定に貢献。
参画型	海藻供給国チリに単独で進出して以来、30年間チリ現地での信頼を勝ち取り、漁民・地元住民を巻き込んだ生産活動を実施。
統合性	環境負荷を軽減してチリの漁民・地元住民の生活基盤安定化に貢献しつつ民間企業として存続し、持続可能な形でSDGsに寄与。
透明性と説明責任	ウェブ上では英語とスペイン語で発信して世界に向けた説明責任を果たしており、世界のトップメーカーから信頼を獲得している。

貢献する目標



出展：外務省・JAPAN SDGs Action Platform 第4回ジャパンSDGsアワード ホームページより抜粋



作成・監修



JPコーチ&コンサルティング株式会社



TOKI MARINE
NICHIDO

東京海上日動火災保険株式会社